

代替医療

最新ガイド

プロポリスはミツバチが樹木の新芽、蕾、樹皮などから採取した樹液や色素などに、ミツバチ自身の分泌液を混ぜてできた樹脂状の固形天然物です。

プロポリスの歴史は古く、紀元前350年から利用され、ギリシャ人は膿瘍に、アッシリア人は傷や腫瘍の治療に用いたといわれています。伝承的には「抗菌作用がある」、「炎症を抑える」などといわれていて、感染症などの一部でヒトでの有効性が示唆されていますが、十分なデータとはいえません。



大野 智

触性皮膚炎が生じる場合があります。プロポリスを利用した際に、体に合わないと感じたり、体の異常を感じたりしたら、使用を中止して、病院や保健所に相談してください。

一方、わが国では、プロポリスは、がん患者に多く利用されているサプリメントのひとつになっています。期待される有効成分として、ちよっと難しい名前ですが、クレロダン系ジテルペン、カフェ酸フェネチル、アルテピリンCなどが知られています。

しかし、肝心の抗がん効果については、培養細胞や実験動物での研究成果がほとんどです。ヒトでの臨床試験によって、がんの縮小や延命効果を認めたという報告は、米国立医学図書館のデータベースを検索したところ、7月末までのところ、ひとつもありません。

今後はプロポリスの有効・無効を明らかにするために、公的な研究資金の導入も踏まえ、ヒトでの臨床試験が計画されることを望みます。プロポリスの安全性に関し

ては、いくつか気をつけておきたい点があります。

プロポリスを経口で摂取した場合、まれですが、アレルギー反応や口内炎を引き起こすことがあります。これらは、ハチやハチミツなどに過敏な人に多いとされています。

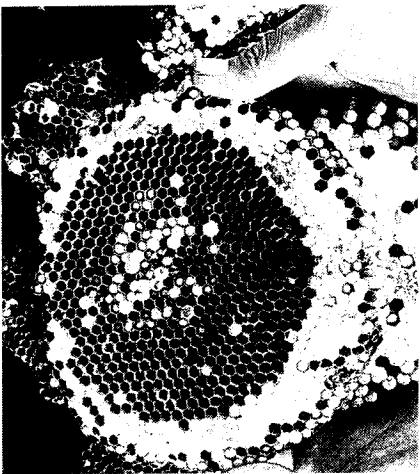
さらに昨年、プロポリスを摂取したがん患者が血液透析を必要とする急性腎障害を起したと台湾から報告されています。また、化粧品なども含めプロポリスを外用剤として用いた場合、接触性皮膚炎が生じる場合があります。プロポリスを利用する場合は、アレルギー反応が生じないと感じたり、体の異常を感じたりしたら、使用を中止して、病院や保健所に相談してください。

重要な品質管理

プロポリスは、ハチの巣から分離して取り出すため、純物質を得ることは難しいとされています。このため、製品にはハチの巣の副産物が含まれることが多く、プロポリスによる健康被害の一因になっているのではと考えられています。

ですが、個々の製品の安全性は、利用された素材、製造法など製品の品質に大きく依存しています。また、プロポリスは生産地によって、その原材料となる起源植物が異なるので、製品による成分の違いも問題点として指摘されています。このため、プロポリスの品質管理は極めて重要な課題であると思われます。

(金沢大学補完代替医療学特任助教)



プロポリスはハチの巣から取り出される